

教職員の働き方改革

～すべての取り組みは、牛久の未来を担う
子どもたちのために～

VOLUME
3

これからの社会は現在と「非連続社会」と言われるほど劇的に変わるといわれています。人工知能（AI）、ビッグデータ、IoT、ロボティクスなどの先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活が変わってきます。このような社会の構造の変化の中で「今の目の前にいる子どもたちが働こうとする職業がなくなるのではないか」「今の学校教育では役に立たないのではないか」という不安も生じています。

そこで国としては、目の前の子どもたちに育てなければならぬ次の時代を切り拓くための資質や能力とは何かと考えたときに、「文章の意味を正確に理解する読解力」「教科の力を働かせて自分の頭で考えて表現する力」「対話や協働を通して知識やアイデアを共有しながら新しい答えを見つけ、みんなが納得する解答を生み出す力」などとなりました。そのために、学校教育では、これからの未来に向かって生きていく子どもたちのために「日々の学び」をより一層充実する必要に迫られています。

一方、現在の子どもたちを取り巻く状況も変わってきていま

す。家族形態が変わってきてきました。価値観やライフスタイルも変わってきました。社会のつながりや地域住民によるセーフティネットも希薄化しています。また情報機器が子どもにも広く使われるようになり人間関係の在り方も変わってきています。貧困問題も学校の子どもたちに影を落としています。

今こそ、「チームとしての学校」という言葉があるように、地域一丸となって子どもを育てなければならぬ時期にきています。

そこで、学校が変わるためには教師のこれまでの仕事を見直し、業務の範囲を明確にし、限られた時間の中で、子どもたちに対して効果的な教育活動を行う必要があります。それには授業改善のための時間や児童生徒に接する時間を確保するための環境整備がより一層必要になってきました。

また、学ぶための意義や授業を通して豊かな人間性の形成のために、地域の人や物や出来事とかけかわるような授業づくりも求められるようになってきました。こうした中で教職員の働き方改革とともに、地域と一体となった教育活動の推進に力を入れていきます。

日々の授業づくりの充実のために

- 日々の子どもたちの授業の充実こそ大切だと考えます
- 日々の授業で学びを人生に生かそうとする力を育てます
- 日々の授業で生きて働く知識を育てます
- 日々の授業で未知の状況にも対応できる力を育てます
- 日々の授業で思いやりや豊かな心を育てます
- 日々の授業で地域とつながります
- 日々の授業でこそ学力をつけます
- そのために先生方の授業準備の時間を確保します
- そのために日課の変更を検討します
 - ➔ 春休みや夏休みの期間
 - ➔ 毎週の5時間授業日の設定
 - ➔ 一日の日課表(始まりの時間や終わりの時間)
 - ➔ 休日の部活動の運営のあり方

～日々の授業づくりの充実のために、これらの取り組みが学校や教育委員会で進められています～

より良い授業づくりのための 働き方改革における 各学校の取り組み例	①	日課を見直し、放課後の時間を確保し、授業準備を行う
	②	学級事務や授業準備の補助を、スクールアシスタントが行う
	③	業務を見直し、廊下の掲示物や配付文書等の業務削減を行う
	④	地域ボランティアや保護者の方による登下校時の見守りを行う
	⑤	保護者の朝の欠席連絡や体温チェックを、アプリを活用して行う
より良い授業づくりのための 働き方改革における 教育委員会の取り組み例	①	各種応募作品の審査・提出作業等を教職員でなく、市職員が行う
	②	教職員の出張を削減する
	③	校務支援システムを導入し、ICTを活用して業務の効率化を図る(令和4年～)